

●京都府立文化芸術会館

<p>前回検証結果 (平成26年度)</p>	<p>継 続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年の東京オリンピックを見据えた文化発信事業の中で、当施設をどのように活用していくかという中長期的な戦略が必要。 ・ 引き続き、利用者数の拡大に向けた営業活動の展開や自主事業の実施等、利用促進の取組を行うこと。 ・ 北山文化環境ゾーン構想の推進の一環として、総合資料館跡地における「新たな文化芸術拠点施設」の整備を検討。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「琳派400年記念祭」や「京都文化カプロジェクト」に関連した事業を実施し、文化芸術の発信拠点として当施設を活用。 ・ 府内各地域にプロの演劇人を派遣しアドバイス等を行う事業を展開。 ・ 舞台芸術活動の活性化・次世代育成等を目的に、府北部地域でイベントを開催、企画・運営。 ・ 営業活動や効果的な広報の工夫、共同事業体である(株)コングレのネットワークを利用したPRなどを実施。 ・ 老朽設備を更新。 ・ 平成30年8月に「総合資料館跡地活用等検討委員会」の検討報告が取りまとめられ、本検討報告を踏まえた施設整備を検討中。
<p>取組の結果</p>	<p>◇直近3箇年の実績として、平成28年度と比較し、平成30年度は、利用者数が約3%増加。</p>
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆施設・設備の老朽化が顕著。 ◆京都市内に類似施設が多く存在。 ◆利用者の年齢層が高く、50歳代以上の利用者が全体の70%を占める。
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p>□建物の老朽化や耐震の課題が明らかになっており、利用者の安心・安全確保の観点からその対策は必至の状況であるが、多大なコスト負担が想定される中で、本施設の改修による存続は考えにくいことから、他所での代替施設の整備も含め、施設の機能継承の方向性を検討されたい。</p> <p>□事業目的に沿った、より幅広い利用者を受け入れる運営を心掛けるとともに、色々な文化芸術の裾野を広げ、新しい文化芸術を育成する観点から、事業目的を達成しているかどうかの指標（KPI）を設定することが必要。</p> <p>□出演者と利用者の幅を広げ、若年層への知名度の向上を図ることが必要。</p>

<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; text-align: center;"> 要改善 </div> <p><改善方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎老朽化した施設の改築や大規模補修のコスト負担が想定される中、施設の機能継承に向けた検討を進めること。 ◎文化芸術の裾野を広げ、新しい文化芸術を育成する観点から、出演者と利用者の幅を広げ、特に若年層の利用率の向上を図ること。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○現施設の良さを活かしながら、施設の機能継承に向けた整備の検討を進める。 ○若年層をはじめとした利用者の幅を広げるために、利用者ニーズを踏まえた企画の実施やサービスの向上等の取組を進める。
-----------------------	---